

2006 年度社団法人日本青年会議所

東海地区静岡ブロック協議会

**静岡ブロック協議会
災害支援ネットワークシステム**

190Net

作成：地域の力実践委員会

目 次

2006年度会長挨拶	1
2006年度担当副会長挨拶	2
本書の使い方	3
趣旨	3
理念	3
体制及び連絡方法	4
静岡ブロック協議会組織図	5
2006年度組織図	6
情報の流れ～県内で災害発生した場合	7
県内で災害発生した場合の情報伝達の説明	8—9
情報の流れ～県外で災害発生した場合	10
県外で災害発生した場合の情報伝達の説明	11
情報報告シート	12
安否確認シート	13
LOMの体制と連絡網	14
災害支援ネットワーク規定	15
静岡BC会員会議所事務局一覧	16
編集後記	17

ご挨拶

2006年度
(社) 日本青年会議所東海地区
静岡ブロック協議会
会長 戸崎義人

1995年1月17日朝のテレビに映し出された光景は今でも忘れられません。阪神淡路大震災です。神戸のとても綺麗な街並みが嘘のような光景でした。また、2004年にはその年を象徴する文字の「災」が示すように、大型の台風が連続して通過し、その直後に襲った中越大地震。本当にあってほしくない災害に次から次へと見舞われました。そのときに私たちは何を感じ、何ができたでしょうか。現地へ出向いて炊き出しの手伝いをした人、物資を送った人、支援金を寄付した人、様々な形で復興のための支援をしてきたはずです。

我々の住むこの静岡においても東海大地震が騒がれて30年以上が経ちます。県の政策においても倒壊ゼロを目指し、様々な政策が行われています。いつくるかわからないこの災害にお金を費やすのはどうかという方々もいらっしゃいますが、備えあれば憂いなしという言葉の通り、危機管理をしておく必要性は充分にあると思います。東海道は日本の大動脈といわれています。今この地域で大規模な災害が起こってしまった場合、静岡だけでなく日本の国においても大きな痛手であることは間違いありません。

今まさに始まろうとしている地域主権において、活力ある地域を創造するためには、行政主導型から自己責任を前提とした市民主導型へと転換していかなければなりません。自分達の身は自分たちで守り、自分達の地域は自分たちで守る必要があります。そんな自己責任で市民主導型のシステムを構築することができるのが、JCのもつネットワークであり、それぞれの地域で活動する我々の使命であると考えます。

今回、地域の力実践委員会において、東海地区との連携の下、災害ネットワークシステムを構築させていただきました。県内22会員会議所の皆様にご理解をいただき、今後このネットワークがしっかりとした形で根付き、万が一に備えお役に立てることと確信しております。ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

挨拶

2006年度
(社) 日本青年会議所東海地区
静岡ブロック協議会
副会長 木村 守

本年度、地域の力実践委員会の担当をさせていただき、災害ネットワークシステムを作るという目標をもち進んでまいりました。

我々が子供の頃から東海大地震がいつきてもおかしくないと言われ続けてかなりの時間が経ちます。いつくるかわからないこの災害に備えておく必要があると思います。阪神淡路大震災に代表されるような静岡県以外で大災害があると、我々の地域にもおきるのではと考え大災害に備えて避難訓練等を頻繁に行い、また災害に備え緊張感をもって生活いたしますが、月日が経つごとに意識は薄れていき最後には災害に対しての緊張感を忘れてしまいます。災害が起きてからでは遅いのです。日頃から災害時にはどのような連絡体制を取れば良いのいかを確認して生活する必要があると考え、地域の力実践委員会で検討を重ね静岡県独自のネットワークシステムを考えました。このネットワークシステムが活用され、常に災害時に備えられるよう活用していただくことを願っております。

本書の使い方

本書は、（社）日本青年会議所に所属するL O M所在地が被災地となった緊急事態に、静岡ブロック内での情報の一元化を図り、状況を正確に把握することにより、J Cとしての支援体制を判断できるネットワークを構築することを目的としたものです。

災害時において、静岡ブロックとして、各L O Mとして、そして各個人として何をすべきかを、災害の起きた場所別にまとめてあります。

災害は日常時に発生することですので、発生の際に目を通すというのではなく、災害を日頃から想定しそれに備えるべく本マニュアルを利用することで、日常生活に安心感を得ることにつなげることができれば幸いです。

メンバーの皆さまにおかれましてはぜひ一度本書に目を通して頂き、災害発生時に備えて頂きたいと思います。

◆趣旨

（社）日本青年会議所に所属するL O M所在地が万一被災地となった場合に、静岡県内外問わず救援・復興への支援をスピーディーかつ無駄なく展開するためのネットワークを構築し実践する事を目的とします。

◆理念

災害発生時・非常時に確実な連携・連絡をし、被害を最小限に防げるよう適切な対応と確実な災害活動を行います。また、救援復興支援を円滑に行い、まちの早期復興を全力で支援します。

静岡ブロック協議会 災害支援ネットワークシステムの体制及び連絡方法

【 準 備 事 項 】

静岡ブロック協議会では、災害時に備え予定者の段階で次のことを決定し会員会議所会議等で報告し各ＬＯＭに周知・徹底する。

① 対策支援準備室

静岡ブロック協議会会長（以下会長と記す）とする。

但し、災害の際、会長の業務遂行に支障が発生したときのため、会長は静岡ブロック協議会筆頭副会長と両名の輩出地域以外の副会長（以下副会長と記す）１名を任命する。

災害発生の際は上記３名で協議し、「対策支援本部」と「対策支援本部長」※の設置を決定する。

※災害発生後、東海地区協議会より東海地区災害対策本部設置の報告を受けた時点で対策支援本部は「静岡ブロック災害対策本部」に、対策支援本部長は「静岡ブロック災害対策本部リーダー」となる。

② 静岡ブロック災害対策本部

静岡ブロック災害対策本部リーダー輩出ＬＯＭとする。

静岡ブロック災害対策本部リーダーの指示の下、ブロック内の各ＬＯＭからの情報収集、東海地区災害対策本部への連絡・報告を補佐する。

③ 静岡ブロック災害対策本部支援ＬＯＭ

災害時に静岡ブロック災害対策本部リーダー及び静岡ブロック災害対策本部の業務がその許容量を超えてしまう場合、静岡ブロック災害対策本部リーダーの要請により、副会長輩出ＬＯＭは「静岡ブロック災害対策本部支援ＬＯＭ」として静岡ブロック災害対策本部リーダー及び静岡ブロック災害対策本部の業務を補佐する。※

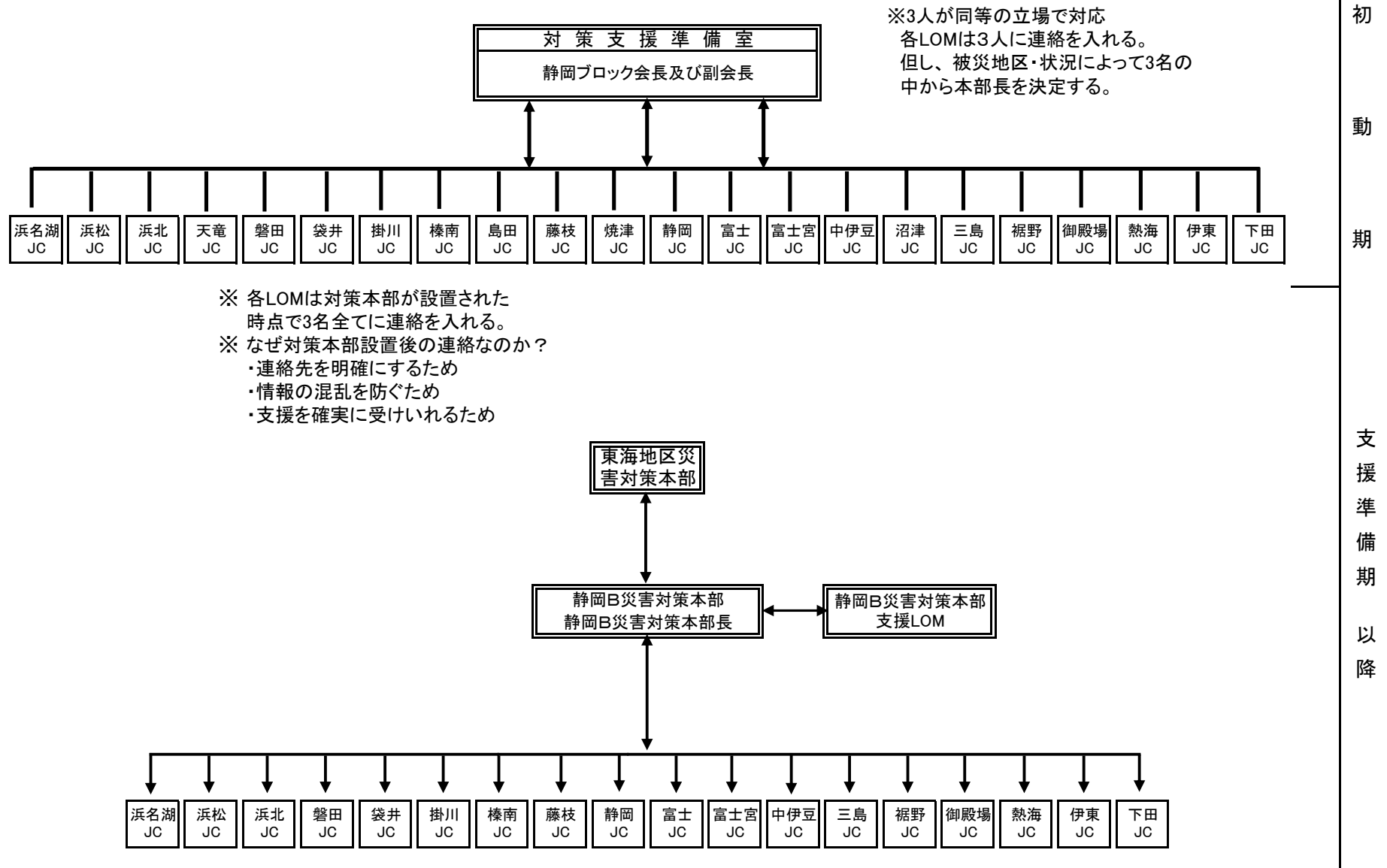
静岡ブロック災害対策本部リーダーの指示の下、各ＬＯＭからの情報収集、東海地区災害対策本部への連絡・報告を補佐する。

※災害の規模・範囲が未知数であるため、事前に東部、中部、西部に配置すること。

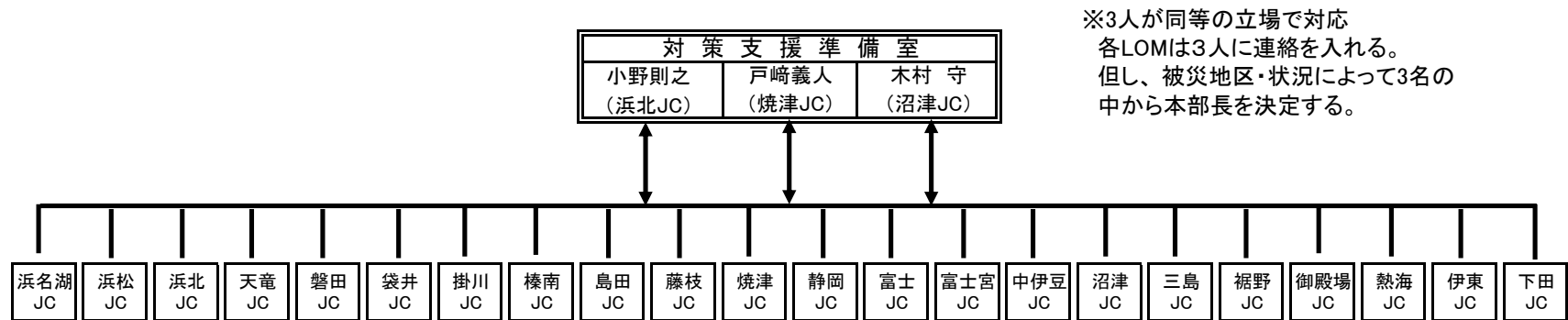
④ 連絡方法

連絡は各ＬＯＭの対策本部が立ち上がり次第行う。携帯メール、インターネット掲示板、携帯電話使用可能な場合は携帯電話を使用する。ＦＡＸ、伝言ダイヤルも使用可能であれば使用する場合もある。

静岡ブロック協議会 190 ネット 組織図

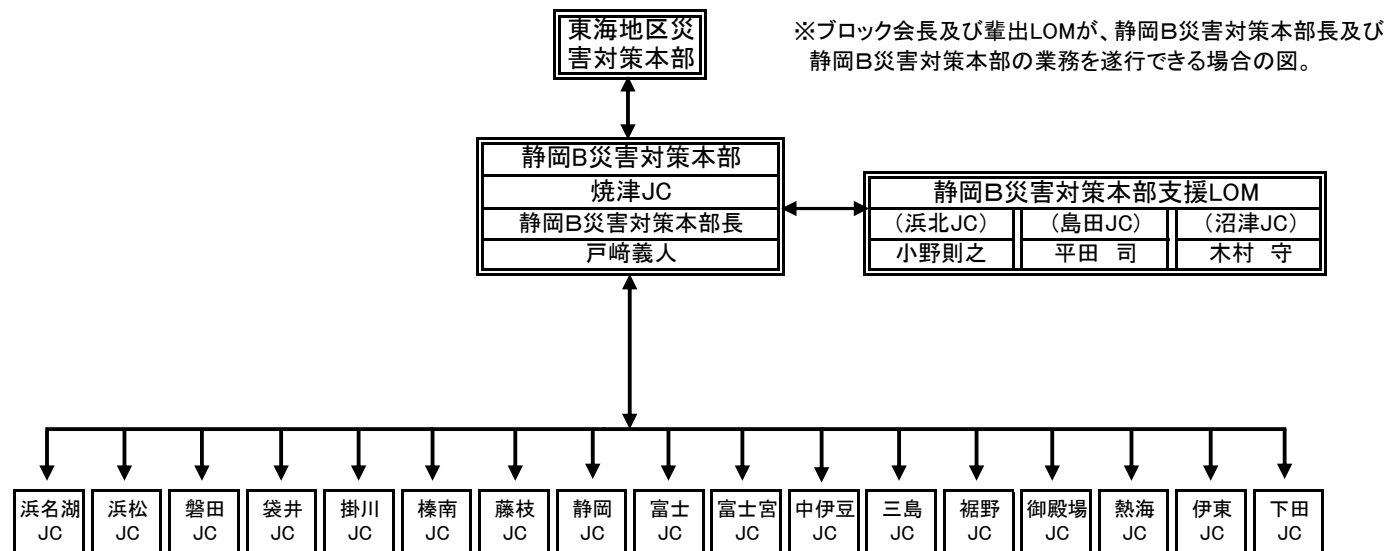


2006年度 1 9 0 ネット 組織図



※3人が同等の立場で対応
各LOMは3人に連絡を入れる。
但し、被災地区・状況によって3名の中
から本部長を決定する。

- ※ 各LOMは対策本部が設置された時点で3名全てに連絡を入れる。
- ※ なぜ対策本部設置後の連絡なのか？
 - ・連絡先を明確にするため
 - ・情報の混乱を防ぐため
 - ・支援を確実に受け入れるため

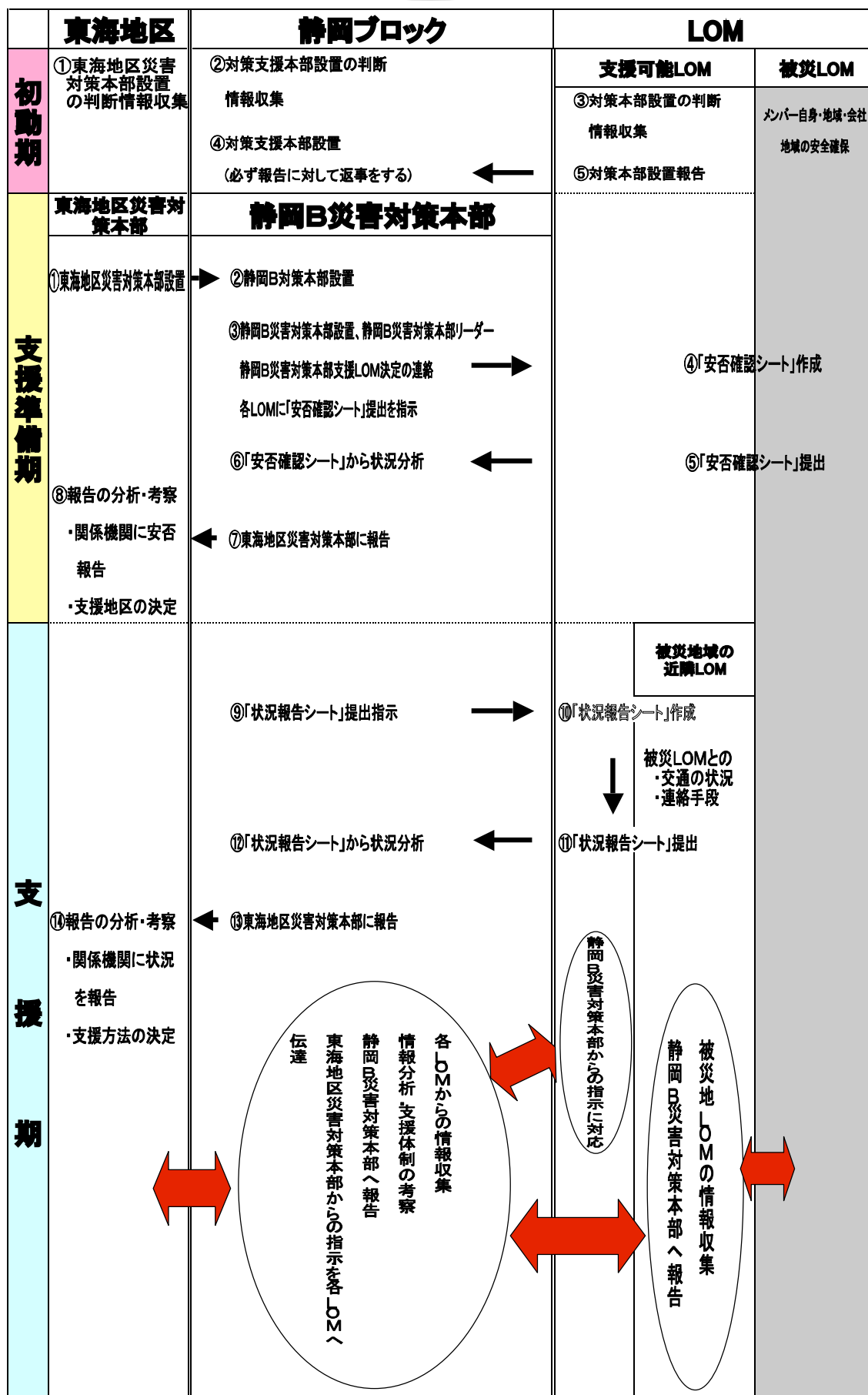


※ブロック会長及び輩出LOMが、静岡B災害対策本部長及び静岡B災害対策本部の業務を遂行できる場合の図。

初
動
期

支
援
準
備
期
以
降

災害発生！



県内で災害発生した場合の説明

【災害発生からの情報伝達】

静岡ブロック協議会内は、災害発生後の初動期には、会長、副会長の計3名が対策支援本部の設置を検討する。被災の地区、状況を考慮し本部長を決定し、東海地区や関係機関と連絡を取る。会長及び副会長の3名は、各LOMからの対策本部設置の連絡に対応する。3名全員に連絡が入るため、必ず各LOMへ返信をする。その際対策支援本部長が誰なのか知らせる。

東海地区協議会（東海地区災害対策本部）から静岡ブロック災害対策本部の設置、及び静岡ブロック災害対策本部リーダーの指名が行われたとき、静岡ブロック災害対策本部リーダーは静岡ブロック協議会内にあらかじめ定められた連絡体制により各LOMへ連絡を行うものとする。

I. 【初動期】対策本部設置の連絡

- ①東海地区は災害発生の情報を得た時、東海地区災害対策本部設置の判断をし、情報収集を行う。
- ②静岡ブロック会長、副会長は災害発生の情報を得た時、「対策支援本部」の設置を判断し、情報収集後④対策支援本部を設置する。
- ③各LOMは、災害発生の情報を得た時、「対策本部」の設置を判断し、情報収集後⑤対策本部を設置する。静岡ブロック会長、副会長の3名※に設置の連絡をする。

※災害の発生場所や規模によって静岡ブロック会長と連絡がとれない可能性もあるため。

各LOMは予め各LOMで決められた順位により代表連絡者が連絡をする。

II. 【支援準備期～支援期】①～③東海地区災害対策本部、静岡ブロック災害対策本部設置

東海地区の東海地区災害対策本部設置の報告で、対策支援本部は「静岡ブロック災害対策本部」として設置される。

静岡ブロック災害対策本部リーダー、静岡ブロック災害対策本部活動LOM、静岡ブロック災害対策本部支援LOMの決定連絡を各LOM対策本部へ行う。

③各LOMに「安否確認シート」提出を指示

静岡ブロック災害対策本部は、対策本部設置済みの全てのLOMに対して「安否確認シート」の提出を指示する。このシートは単に状況分析のみに使われるのではなく、提出のなかったLOMが災害にあっている、という推測を立てるためのツールでもある。

④「安否確認シート」作成 → ⑤静岡ブロック災害対策本部に提出

各LOMは、「安否確認シート」を作成し静岡ブロック災害対策本部に提出する。単にLOM内ばかりでなく、周辺LOMの状況も解る範囲で記入すること。

⑥「安否確認シート」から状況分析 → ⑦東海地区災害対策本部に報告

静岡ブロック災害対策本部は、提出された「安否確認シート」を基に被害状況等进行分析し東海地区災害対策本部に報告する。また、提出の無いＬＯＭが被災しているのか、または何らかの事情で提出されていないだけなのかを提出のあった近隣ＬＯＭと連絡を取り合うことで、把握するように努める。

静岡ブロック災害対策本部は各ＬＯＭから報告内容进行分析し、静岡ブロック内の被害状況等进行分析し東海地区災害対策本部に報告する。

⑨「状況報告シート」提出指示

静岡ブロック災害対策本部は、より細かな被害状況を把握するため所属する全てのＬＯＭに対して「状況報告シート」の提出を指示する。

⑩「状況報告シート」作成 → ⑪「状況報告シート」提出

各ＬＯＭは、「状況報告シート」を作成し静岡ブロック災害対策本部に提出する。
特に被災地区の周辺ＬＯＭは被災地の状況は勿論、被災地への交通網・連絡手段の確保に配慮する。

⑫「状況報告シート」から状況分析 → ⑬被災地区の状況などを東海地区災害対策本部に報告

静岡ブロック災害対策本部は提出された「状況報告シート」内容进行分析し、地域内の被害状況等进行分析し東海地区災害対策本部に報告する。

東海地区災害対策本部、静岡ブロック災害対策本部及び各ＬＯＭは互いに連携・連絡を取り、効率の良い支援活動を行う。

各ＬＯＭは、大前提としてＬＯＭの対策本部設置が完全に整った状態で連絡をする。

～なぜ対策本部設置後なのか？～

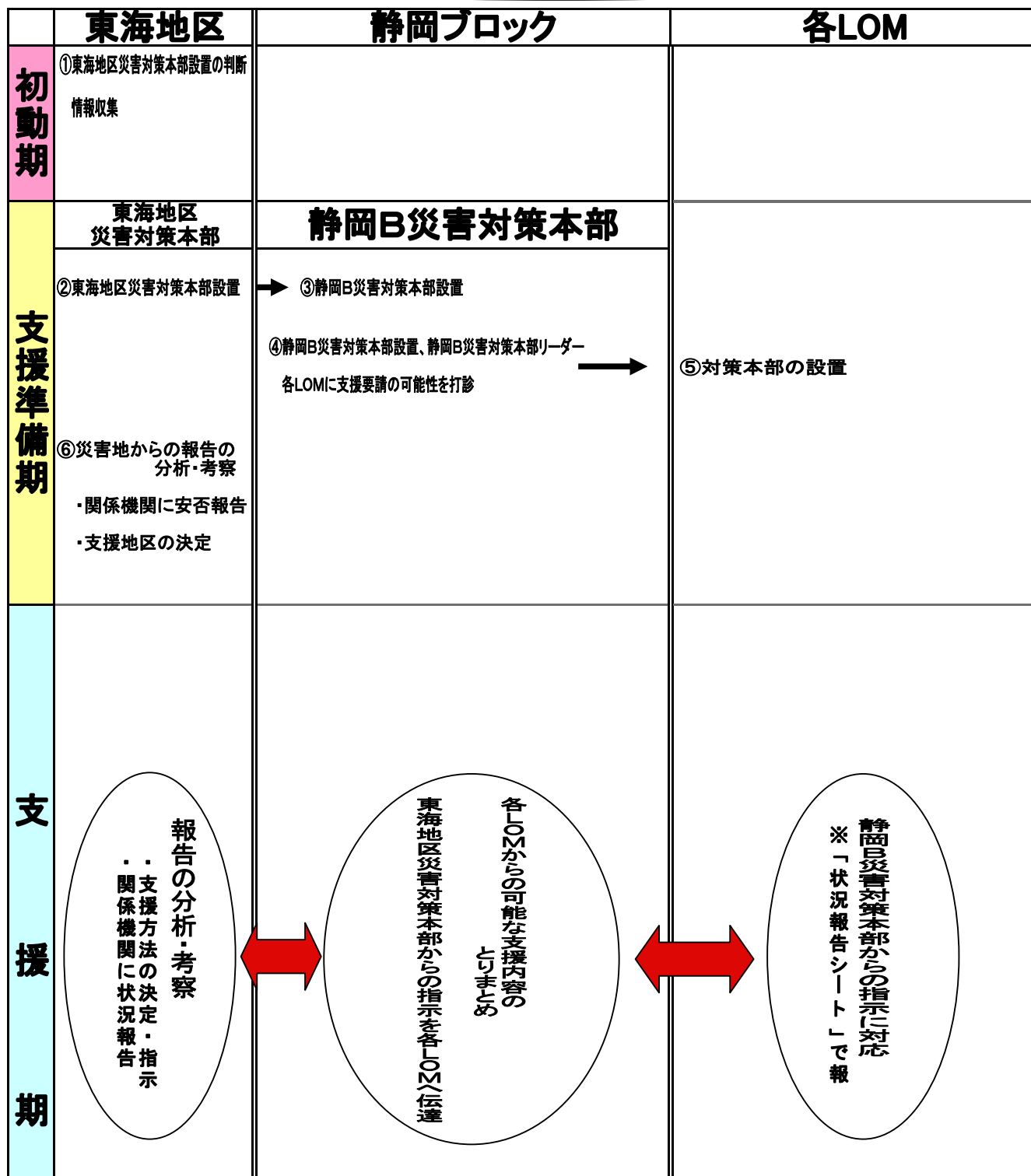
連絡がお互いに出来る状況でない限り、支援活動に繋がらないため。

連絡先を明確にし、情報の混乱を防止するため。

今後の支援を受ける際、支援活動を地域に充分反映するため。

情報の流れ～県外で災害が発生した場合

災害発生！



県外で災害発生した場合の説明

【県外災害発生からの情報伝達】

I.【初動期】東海地区災害対策本部からの情報収集

- ①東海地区は災害発生の情報を得た時、東海地区災害対策本部設置の判断をし、情報収集を行う。

II.【支援準備期～支援期】東海地区災害対策本部、静岡ブロック災害対策本部設置

- ② 東海地区災害対策本部設置。
- ③ 静岡ブロック災害対策本部を設置。
- ④ 静岡ブロック災害対策本部設置後、静岡ブロック災害対策本部リーダーは各 L O M に対して支援要請の可能性を打診し、⑤対策本部の設置を要請する。
- ⑥ 東海地区災害対策本部は、災害地からの報告を分析・考案し、関係機関に対して安否報告を行う。また、支援地区を決定する。

東海地区、静岡ブロック及び各 L O M は互いに連携・連絡を取り、効率の良い支援活動を行う。

状況報告シート

LOM名			
被災地状況			
被災地までの交通手段	所要時間	時間	分
伝達事項(重要事項はアンダーラインの上、関係者に伝えること)			
依頼事項（重要事項はアンダーライン）			
その他			

安 否 確 認 シ ー ト

LOM名	
代表連絡者	
氏名	
連絡手段	携帯電話 mail HP掲示板 その他
連絡先番号	
地域の状況	
地域、避難場所等状況報告	

静岡ブロック協議会 災害支援ネットワークシステムLOMの体制と連絡方法

【準備事項】

各LOMでは、災害支援ネットワークシステム規定に従い災害時に備え
予定者の段階で次のことを決定し理事会等で報告し各メンバーに周知、徹底する。

【役割】

①本部長

原則、理事長が務めるものとする。

災害発生時にLOM災害対策本部を立ち上げる。（ブロック、各メンバーと連絡可能な場所に設置）

各メンバーからの安否確認・被災状況を把握し、静岡ブロック対策支援本部長、対策支援副本部長に『安否確認シート』として報告する。

また、地区対策本部より支援要請があった場合には、速やかにLOM各メンバーに伝える。

②副本部長

災害発生時、本部長がその機能を果たせない場合、副本部長が本部長の任に就きその機能を果たす。

③各メンバー

災害発生時、速やかに自身の安否確認並びに地域の被災状況を報告する。

また、本部長より支援要請があった場合には出来る限り協力する。

【流れ】

	LOM		
	本部長	支援可能メンバー	被災メンバー
初動期	ブロック支援本部長並びに対策支援副本部長に災害発生を報告	安否確認・地域の被災状況を報告する	メンバー自身・家族 会社・地域の安全確保 
支援準備期	『安否確認シート』を作成 静岡B災害対策本部に報告		
支援期	『状況報告シート』の作成、報告 被災地LOMの情報収集 各地域対策本部へ報告	本部長の指示に従う	

各地域対策本部の指示に対応

静岡ブロック会員会議所事務局

LOM名	事務局所在地	TEL FAX	E-mail
(社)下田青年会議所	〒415-8603 下田市2-12-17 下田商工会議所2F	0558-22-5445 0558-23-2504	shimodajc@ck.tnc.ne.jp
(社)伊東青年会議所	〒414-0028 伊東市銀座元町6-11 伊東商工会議所3F	0557-36-6070 0557-36-6030	mail@ito-jc.org
(社)熱海青年会議所	〒413-0014 熱海市渚町8-2 熱海商工会議所内	0557-82-1855 0557-82-1856	atami-jc@zero.ad.jp
(社)御殿場青年会議所	〒412-0021 御殿場市二枚橋239 二枚橋プラザビル2F	0550-82-2221 0550-83-2587	g-jc@kzc.biglobe.ne.jp
(社)裾野青年会議所	〒410-1102 裾野市深良451 裾野市商工会館内	055-993-2158 055-993-9291	sight@ck.tnc.ne.jp
(社)三島青年会議所	〒411-0036 三島市一番町2-29 三島商工会館3F	055-971-1687 055-971-5001	info@mishimajc.jp
(社)沼津青年会議所	〒410-0872 沼津市小諏訪926-4	055-920-2525 055-927-2922	numazu-jc@shizuokanet.ne.jp
中伊豆青年会議所	〒410-2505 伊豆市八幡633-14	0558-75-7122 0558-75-7121	izujc@herb.ocn.ne.jp
(社)富士宮青年会議所	〒418-0057 富士宮市朝日町12-18	0544-27-9693 0544-27-9793	info@fujinomiya-jc.com
(社)富士青年会議所	〒417-0057 富士市瓜島町82 富士市商工会議所会館内2F	0545-53-3366 0545-52-2581	fuji-jc@tokai.or.jp
(社)静岡青年会議所	〒424-0851 静岡市葵区黒金町20-8 静岡商工会議所会館304	054-255-5593 054-255-4694	info@shizuoka-jc.or.jp
(社)藤枝青年会議所	〒426-0026 藤枝市岡出山1-10-9	054-643-3575 054-645-1441	info@fujieda-jc.or.jp
(社)島田青年会議所	〒427-0056 島田市大津通り1965 サンライズ島田3-B	0547-35-6359 0547-37-7855	simadajc@fuji.ne.jp
榛南青年会議所	〒421-0511 牧乃原市片浜1091-1	0548-53-1017 0548-53-1018	hainanjc@vcs.wbs.ne.jp
掛川青年会議所	〒436-0079 掛川市掛川551-2 掛川商工会議所内	0537-22-5151 0537-22-0954	kakegawa-jc@ny.tokai.or.jp
(社)袋井青年会議所	〒437-0013 袋井市新屋1-2-1 袋井総合センター内	0538-43-5011 0538-43-5011	info@fukuroi-jc.jp
(社)磐田青年会議所	〒438-0078 磐田市中泉281-1 磐田商工会館内	0538-37-1616 0538-37-6351	iwata-jc@inh.co.jp
(社)天竜青年会議所	〒431-3311 浜松市二俣町阿蔵114-2	0539-25-6336 0539-25-6336	tenryujc@mug.biglobe.ne.jp
(社)浜北青年会議所	〒434-0038 浜松市貴布祢289-10 浜北商工会館内	053-587-2333 053-587-7667	hamakita_jc@ybb.ne.jp
(社)浜松青年会議所	〒432-8036 浜松市東伊場1-3-1 グランドホテル浜松内	053-454-6721 053-455-3563	room@hamamatsujc.jp
(社)浜名湖青年会議所	〒431-0431 湖西市鷺津332-8 湖西市商工会館内	053-576-0637 053-576-3981	hnc-jc@liv.co.jp
(社)焼津青年会議所	〒425-0026 焼津市焼津4-9-1 産業会館内	054-628-1518 054-629-1518	yaizu-jc@mail.wbs.ne.jp
2006年度静岡 ブロック協議会	〒425-0026 焼津市焼津4-9-1 産業会館内	054-628-1552 054-629-1518	shizuoka-bc2006@ai.tnc.ne.jp

■ 編集後記 ■

人間社会は共存共栄であり「思いやり」「助け合い」なくしては成り立ちません。平和ボケしていた私たちは、災害が起きた時に初めて思いやり・助け合いの大切さを痛感する事でしょう。

今年度私達の委員会では、自分達の身は自分達で守り、自分達の地域は自分達で守るというスタンスに立ち、災害時における青年会議所という組織を最大限活用したネットワークシステムを考えました。そして、そのネットワークシステムを190ネットと名付けました。190ネットとは、災害発生1より、避難・安否確認・救助・被害状況の報告などの動きまでを9、そして現状復帰を0という連携連絡及び支援の流れを数字にたとえたものです。私達はこのネットワークシステムが使用されない事を願うばかりですが、いざという時には忘れないでいて欲しいと思います。私達メンバーは決して一人ではなく皆と繋がっているという事、それが真の共存共栄だという事を。

2006年度 社団法人日本青年会議所

東海地区 静岡ブロック協議会 地域の力実践委員会

担当副会長	木村 守	沼津 J C
委員長	戸田 郁夫	磐田 J C
副委員長	小山 伸治	磐田 J C
副委員長	市川 静彦	天竜 J C
副委員長	大石 聡	島田 J C
副委員長	柴田 博司	沼津 J C
運営幹事	八木 京一	磐田 J C
会計幹事	青島 邦信	磐田 J C

委員	渡辺 俊文	下田 J C
委員	安東 忍	伊東 J C
委員	岩本 佳之	熱海 J C
委員	青野 英仁	御殿場 J C
委員	渡辺 誠二	裾野 J C
委員	佐藤 良太	三島 J C
委員	原川 宜与	沼津 J C
委員	浅田 孝	中伊豆 J C
委員	遠藤 是真	富士宮 J C
委員	竹田 敏宏	富士 J C
委員	久保田 泰輔	静岡 J C
委員	小野 貴嗣	静岡 J C
委員	籠島 良明	藤枝 J C

委員	朝比奈 茂輝	藤枝 J C
委員	天王沢 雄之	島田 J C
委員	四之宮 伸明	榛南 J C
委員	金本 泰行	掛川 J C
委員	鈴木 功二	掛川 J C
委員	平谷 修一郎	袋井 J C
委員	古橋 直樹	浜北 J C
委員	東 英之	浜松 J C
委員	上手 良久	浜松 J C
委員	鴨川 稔	浜松 J C
委員	鈴木 優	浜名湖 J C
委員	岩田 州生	焼津 J C
委員	波平 英之	焼津 J C